

桂奉略歴

1893年(明治26)	5月21日	後の宮中顧問官・桂潜太郎息として、東京に生れる。
1899年(明治32)	9月	学習院初等学科一年入学。
1906年(明治39)	4月	学習院中等学科二年修了。
	9月	陸軍中央幼年学校予科一年入学。
1908年(明治41)	12月	陸軍中央幼年学校予科三年中退。
1909年(明治42)	4月	慶應義塾普通部四年に編入。
1911年(明治44)	3月	慶應義塾普通部卒業。
1912年(大正1)	9月	第六高等学校一部甲類入学。
1915年(大正4)	7月	第六高等学校卒業。
	9月	東京帝国大学法科大学経済学科入学。
1918年(大正7)	7月	東京帝国大学法科大学経済学科卒業。法学士。 成績優秀につき銀時計を賜る。
	8月	三菱合資会社入社。総務部総務課勤務。
1921年(大正10)	3月	三菱合資会社を諭旨退職。
	4月	財団法人協調会に就職。 本邦女工労働事情調査及び本邦労働組合運動調査担当
1922年(大正11)	9月	東京帝国大学大学院在学(～1924年〔同13〕7月) 専攻「産業社会化問題」
1925年(大正14)	4月	日本大学講師・経済学史及労働問題担当(～1930年〔同5〕3月)
1926年(昭和2)	12月	岡谷山一製糸工場争議で労働組合側に加担したとして諭旨免職。
1929年(昭和4)	9月	東京瓦斯株式会社入社。労働管理及組合団交担当。傍系会社の役員兼任
1941年(昭和16)	10月	日本曹達株式会社入社。理事・人事部次長。傍系会社の役員兼任(～1942年〔同17〕10月)
1942年(昭和17)	11月	化学工業統制会理事・勤労部長就任。
1945年(昭和20)	10月	労働法制審議会委員(～1946年〔同21〕12月)。 末弘巖太郎と共に労働三法案を起草。 トルーマン特派爆撃調査団の化学工業担当。(～同年11月)。
1946年(昭和21)	1月	日本化学工業会専務理事。
	2月	財団法人中央労働学園理事長就任。 中央労働学園はGHQの示唆により解散された協調会の残余財産に基き設立。
	3月	中央労働委員会公益委員・四期。(～1952年〔同27〕6月)。 二・三・四期会長代理 神奈川県地方労働委員会公益委員(～1947年〔同22〕11月)。一・二期会長。
	6月	日本化学工業会専務理事辞職
1947年(昭和22)		社会保障制度審議会委員・三期。(～1948年〔同23〕)。 臨時行政整理委員会委員・三期。(～1948年〔同23〕)。
	10月	臨時給与制度委員会委員長。(～1948年〔同23〕2月)。
1948年(昭和23)		小運送審議会委員・一期。
	2月	2,920円ベースを片山内閣に答申
1951年(昭和26)		国鉄機関車労働組合(動労)顧問(～1953年〔同28〕)
	4月	東京都人事委員会委員・二期(～1957年〔同32〕3月)
	7月	中央労働学園理事長辞任 財団法人桂労働関係研究所設立。理事長就任。労働年鑑刊行。
1954年(昭和29)	6月	米軍のOrdinance Dep. Labor Adviser(～1967年〔同42〕12月)
1960年(昭和35)	10月	日本中央競馬会労働コンサルタント(～1955年〔同30〕)。
1964年(昭和39)	3月	桂労働関係研究所解散
1967年(昭和42)	4月	学校法人京王学園奥州大学教授就任。労働運動史及労働法担当。スキー部長・就職促進委員会委員長・学生指導部長等を歴任。
	6月	東洋大学理事・団交担当
1967年(昭和42)	12月	学内紛争のため理事一同連袂辞職
1968年(昭和43)	10月	学校法人京王学園理事就任。
1984年(昭和59)	2月12日	鎌倉の自宅にて逝去。享年90歳。